

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-1

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	教育施設等管理委託業務			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名 氏名	課長 安田伸雄	作成者 氏名 新谷朋人
事業の概要	行財政改革の一つとして、経費削減を目的に教育委員会所管施設（町内小中学校・町民センター・中央公民館・図書館・テニスコート）の管理業務を民間へ委託している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	1	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	24,641千円	23,955千円	23,955千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	24,641千円	23,955千円	23,955千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒、地域住民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	実施1年目でもあり現時点では特に無し		各施設の適切な維持管理	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	児童・生徒、町民の利用しやすい町有施設の適切な維持管理		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	学校環境整備による児童・生徒の学校生活の充実と地域住民の文化・スポーツの振興等が図られる		① 委託施設数	目標年度 目標値 11施設 実績値 11施設 達成度 100%
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①施設管理の民間委託	長期継続契約による施設管理委託を行い、町費支出の抑制を図るとともに、教育委員会所管施設の適切な維持管理が図られた。			
②				
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	各学校用務員の配置は児童・生徒、学校教員にとって住みよい学校生活、適正な学校運営をおこなう上で必要不可欠であり、その他施設についても町民の文化・スポーツの振興上必要不可欠である。また、民間委託により経費節減が図られている。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	委託全施設の適切な維持管理がおこなわれ、学校環境整備による児童・生徒の学校生活の充実と地域住民の文化・スポーツの振興等が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

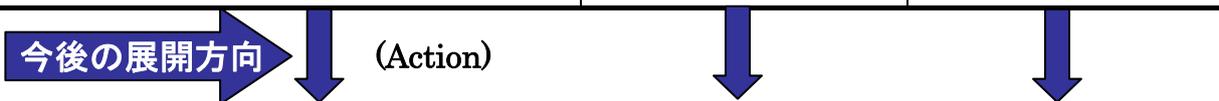
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	直営で施設管理をしていたころよりも管理内容をほぼ同じくして町費支出の抑制が図られ、さらに、臨時職員の雇用に係る職員の事務作業の軽減にもつながった。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
民間委託により町費支出の抑制も図られており、現時点では大きな問題も無く業務は進められていることから、計画どおり事業を進めることが適当と判断できる		



継続／現状維持		
民間委託により町費支出の抑制も図られており、適切な施設の維持管理もされているとともに、町民の施設利用にも支障なく業務はおこなわれている。3年間の長期継続契約の1年目でもあり、現状維持により継続が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-2

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	語学指導等を行う外国人青年招致事業			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	児童・生徒の国際理解力の向上並びに英語教育の内容充実に向け、外国語指導助手（ALT）1名を招致している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等	語学指導等を行う外国青年就業規則		
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	5,501千円	5,382千円	5,936千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	5,470千円	5,359千円	5,913千円

2 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が(対象)】	児童・生徒	指標／目標	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）								
【抱える課題や二一ズは】	招致する外国人青年については町が選択することができないため、ALTとしての資質の見極めが難しい。また、基本的には単年度契約なので長期的な展開が難しい。		外国人青年の招致人数								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	外国人青年を招致することにより、外国語教育の充実を図る。		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	児童・生徒が外国語を身近に感じることによって国際感覚に富んだ人材を育成する。		① 招致人数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	1名	実績値	1名	達成度
目標年度	19年度										
目標値	1名										
実績値	1名										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度		目標値		実績値		達成度	%
目標年度											
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容（どのような手段で何を行ったか）											
①JETプログラムによる外国語指導助手（ALT）の配置	道北海道知事政策部知事室国際課、(財)自治体国際化協会との連携により外国語指導助手を1名招致した。										
②小中学校・高等学校における英語授業の実施	年度当初に各学校への配置スケジュールを組み、中学校・高等学校での英語授業（TT）や小学校での総合的な学習の中での英語授業を実施した。										
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	外国人青年を招致し英語授業を充実することによって、子どもたちの英語や外国に対する関心も高まっている。また、今後小学校高学年における英語教育の必修化も予定されており、今後はさらに必要性が増す事業と考えている。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	昨年8月に前ALTが契約期間満了に伴い帰国し、新たなALTを招致することができた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	JETプログラム就業規則に添った中での招致に必要な経費と最低限生活に必要な経費を計上しており、またJETプログラムによる招致については地方交付税措置(市町村負担経費の7~8割程度)も講じられている。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A~D】

〔 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要 〕

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
児童生徒が外国語に触れる機会を設けることによって国際感覚に富んだ人材を育成するために必要な事業である。 配置されるALTの日本語能力などによっては、学校との意思疎通が十分に図られないこともあるため、定期的な意見交換の場を設けるなどの工夫をおこなうことによって、さらなる外国語教育の充実が図られる。	↓	

今後の展開方向 (Action)

継続／現状維持		
外国人青年を招致し英語授業を充実することによって、子どもたちの英語や外国に対する関心も高まってきている。また、今後小学校高学年における英語教育の必修化も予定されており、今後はさらに必要性が増す事業と考えており、継続・現状維持が適当であるとする。		

* 展開方向の区分

○継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 ○終了 ○休止 ○廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-3

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	教職員住宅風呂ガス釜取替工事			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名 氏名	課長 安田伸雄	作成者 氏名 新谷朋人
事業の概要	教職員住宅の風呂ガス釜については、経年から火災等の危険性があるため、平成16年度から計画的に更新をおこなっている。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	2,369千円	1,759千円	2,399千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	2,369千円	1,759千円	2,399千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	教職員・教職員住宅	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題や二一ズは】	特に無し		教職員住宅の適切な維持管理		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	風呂釜を更新し、安全な生活環境を整える。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町立学校に勤務する教員が安心して生活するための環境整備が図られた		① 更新戸数	目標年度	19年度
			目標値	8戸	
			実績値	8戸	
			達成度	100%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①風呂ガス釜の更新	平成16年度から平成20年度にかけて、設置年度の古い順から計画的に更新をおこなっている。平成19年度は指名競争入札により業者を決定し、予定通り8戸の更新をおこなった。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	教職員住宅等を設置する町においては、老朽化した設備を更新することによって火災事故等を未然に防止し、入居者の安全を確保する必要がある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	教職員が安心して生活できる環境の整備が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

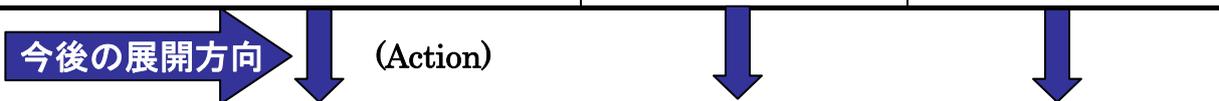
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	指名競争入札により業者を決定した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
万が一、火災事故等が発生した場合を想定すると、更新は不可欠なものであり、計画どおり事業を進めることが適当である。		



継続／現状維持		
教職員が安心して生活できる環境の整備が図られるとともに、指名競争入札により業者を決定するなど、事業コストの縮減も図っており、現状維持による継続が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-4

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	各学校施設改修事業			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	町立学校施設や教職員住宅については経年により、各種修理改修工事が必要となることから、比較的小規模な工事について本事業により実施している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	2,902千円	2,871千円	2,850千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	2,902千円	2,871千円	2,850千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒・教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題や二一ズは】	年数が経つにつれ、修繕の必要箇所が増えてくる。施設を管理していく上では突発的に大規模工事が必要となることも懸念される。		各学校施設の適切な維持管理		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	児童・生徒、教職員が学校生活を送りやすい環境、さらには保護者が安心できる教育環境をつくる。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	適切な維持管理、改修工事をおこない、安全で安心な学校づくりをおこなう。		① 町立学校数	目標年度	19年度
			目標値	7校	
			実績値	7校	
			達成度	100%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①学校の状況把握	学校の要望を聞き取り、教育委員と教委職員による学校訪問を実施し、改修工事の必要箇所の把握。				
②学校施設改修工事	指名競争入札により業者を決定し、学校からの要望を踏まえた各種工事を実施。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	児童・生徒が義務教育を受けるための学校施設を町が維持管理していくことは必要不可欠である。特に児童生徒の安全面を最重要視し、的確に必要な工事をおこなっていく必要がある。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施することにより、教育環境の整備が図られている。
有効／概ね有効／課題あり		

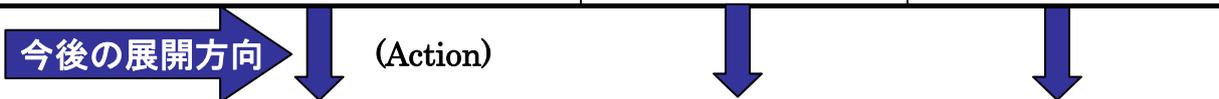
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	建設水道課と協議し工事手法ごとの概算見積りを算出し、比較検討をおこなうなど低コスト化を図った。指名競争入札により業者を決定した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
児童・生徒が義務教育を受けるための環境づくり、保護者が安心して子どもを学校に通学させられる環境づくりをおこなう本事業は計画どおりに進めていくことが必要である。		



継続／現状維持		
児童・生徒の安全面を最重要視し、的確な改修工事の必要性を把握し、児童・生徒が義務教育を受けるための環境づくり、保護者が安心して子どもを学校に通学させられる環境づくりは必要であり、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-5

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	幌内小学校グランドフェンス改修工事			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	幌内小学校のグランドと国道の境にあるフェンスが経年と風雪害等から損壊し、児童の安全面を考慮し改修工事を実施した			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	一千円	1,528千円	一千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	一千円	1,528千円	一千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題や二一ズは】	年数が経つにつれ、修繕の必要箇所が増えてくる。施設を管理していく上では突発的に大規模工事が必要となることも予想される。		学校施設の適切な維持管理		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	児童が学校生活を送りやすい環境、さらには保護者が安心できる教育環境をつくる。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	適切な維持管理、改修工事をおこない、安全で安心な学校づくりをおこなう。		① 改修箇所数	目標年度	19年度
			目標値	1箇所	
			実績値	1箇所	
			達成度	100%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①学校の状況把握	学校の要望を聞き取り、教育委員と教委職員による学校訪問を実施し、改修工事の必要箇所の現状を把握。				
②学校施設改修工事	指名競争入札により業者を決定し工事を実施。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	児童・生徒が義務教育を受けるための学校施設を町が維持管理していくことは必要不可欠である。本事業は児童の安全面を考慮した上では必要な事業である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	改修工事の実施により、学校生活における児童の事故防止等安全面が向上した。
有効／概ね有効／課題あり		

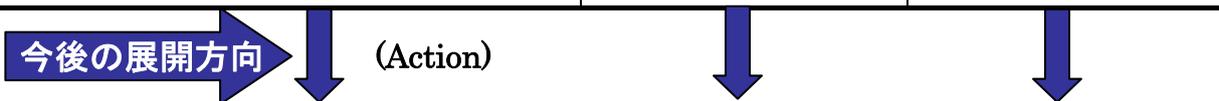
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	既設の部材 (門扉) を再利用するなど低コスト化を図った。指名競争入札により業者を決定した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
児童・生徒が義務教育を受けるための環境づくり、保護者が安心して子どもを学校に通学させられる環境づくりをおこなう本事業は必要である。		



終了		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-6

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	共栄小学校コピー機更新			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	校務推進上必要な管理備品の老朽化から、備品（コピー機）の更新をおこなった。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	一千円	618千円	一千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	一千円	618千円	一千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	効率的な校務運営	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	町立学校の管理備品については耐用年数を超過しているものもあり、随時更新が必要である。		学校管理備品(コピー機)の更新		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	管理備品の更新・整備により、校務が効率的かつ効果的に推進できる環境を整備する。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	校務が円滑におこなわれる。		① 更新台数	目標年度	19年度
			目標値	1台	
			実績値	1台	
			達成度	100%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①学校の状況把握	学校の要望を聞き取り、教育委員と教委職員による学校訪問を実施し、現状を把握。				
②コピー機の更新	複数業者による見積合わせによりコピー機を更新した。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	学校管理備品の整備・更新は校務推進上、必要不可欠である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	校務の円滑な推進に役立っている。
有効／概ね有効／課題あり		

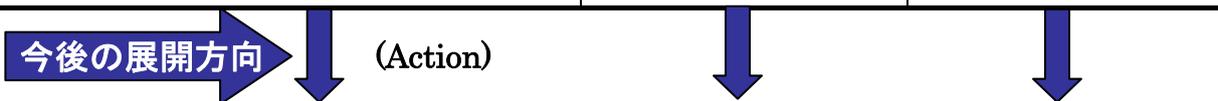
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input checked="" type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	多種多様な機種の中から、各校の利用頻度と事務効率の向上性を勘案し適切な機種選定をおこなうとともに、複数業者による見積合せにより、低コスト化を図った。また1枚当たりの利用単価についても従来と比較し安価なものとした。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

[A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要]
 [C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要]

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
校務の運営に欠かすことのできない備品の更新であり、必要な事業である。		



終了		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-7

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	山村留学推進連絡協議会運営事業			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	職名
				氏名
				係長
事業の概要	へき地校の存続と教職員確保による教育内容の充実・発展・向上を目指すことを目的に、町内2校の山村留学制度実施校に対して雄武町山村留学推進協議会を通じた地域協議会への運営助成をおこなった。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	800千円	700千円	700千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	800千円	700千円	700千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・地域住民	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題や二一ズは】	山村留学に対する問い合わせはあるが、住宅面や就職面での条件が合わず、実施には至らないケースが多い。		へき地校の存続								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	地域協議会が活発なPR活動を行うことによって山村留學生を誘致し、へき地校の存続と教職員数を確保する。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	へき地校の存続と教職員数を確保することによって教育内容や教育環境の充実と地域衰退を防ぐ。		① 山村留学実施校の存続	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>2校</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>2校</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	2校	実績値	2校	達成度
目標年度	19年度										
目標値	2校										
実績値	2校										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度		目標値		実績値		達成度	%
目標年度											
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
① 雄武町山村留学推進連絡協議会の運営	産業関係団体と地域協議会からなる協議会を運営し、制度実施上の課題等について協議するとともに、山村留學生の受け入れ段階における各種協力体制の確立を図った。										
② 山村留学を実施している地域協議会への運営助成	制度実施校に対してPR経費や受け入れに必要な経費について運営助成金として交付した。										
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	過疎化や地域の衰退を防ぐことは、町全体の課題でもあり、そのためには有効な事業の1つと考えられる。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	共栄小学校に2名(1世帯)の山村留学生を誘致することができた。
有効／概ね有効／課題あり		

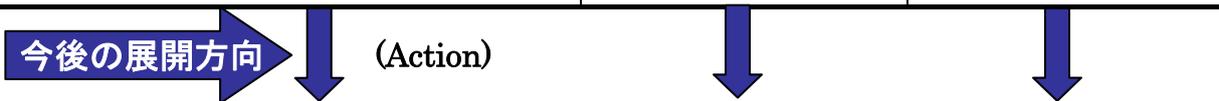
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input checked="" type="checkbox"/> その他	運営助成費の削減をおこなった。 地域協議会におけるPR活動の成果から、山村留学生を誘致し、学校の維持存続につなげることができた。 他府県や都市部からの児童を迎え入れることによって、へき地の子供たちにとっては、成長過程におけるさまざまな効果も期待できる。本事業は継続的な取組があつて効果が得られるものと考えます。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

〔 A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要 〕

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
本事業の目的を達成するためには継続的な取組が必要であることから、計画どおり事業を進めることが必要である。		



継続／現状維持		
過疎化や地域衰退を防ぐことは、町全体の課題でもあり、本事業はそのための有効な事業の1つと考えられる。目的がへき地校の存続でもあることから現状による継続的な取組が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-8

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	言語治療通学費事業			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名 氏名	課長 安田伸雄	作成者 職名 氏名 係長 新谷朋人
事業の概要	ことばの発達障害を持つ児童の早期治療に向けた通級費用の一部助成による保護者負担の軽減と地区唯一の西紋地区言語治療学級（ことばの教室）の運営・設備維持費の一部負担をおこなった。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	149千円	239千円	331千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	149千円	239千円	331千円

2 事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が(対象)】	児童・保護者	指標／目標	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）	
【抱える課題やニーズは】	西紋管内唯一の言語治療学級であり、将来的にも存続させていかなければならない。		ことばの発達障害児数（通級児童数）	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	ことばの発達障害を持つ児童の解消と言語治療学級の運営維持。		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	障害を解消し、正しい発音、表現力、理解力を高め、教育内容の充実につなげる。また、言語治療学級を維持し、保護者の負担軽減を図る。		① 障害児（通級児童）数 ／H19年度通級によって 障害が解消され、H20年度 は通級の必要がない児童数	目標年度 19年度 目標値 4名 実績値 2名 達成度 50%
内容（どのような手段で何を行ったか）				
①西紋地区言語治療学級の運営費負担	西紋市町村により運営費を負担。			
②ことばの発達障害を有する児童の通級に要する交通費の一部助成	西紋地区言語治療学級からの証明にもとづき、児童の通級に係る交通費の一部を負担。（通級した月数×バス料金1回分（往復）を支給）※児童分のみ			
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	保護者負担の軽減と個々の児童の学校生活を考慮した場合、通級費の一部助成は適切なものとする。また、保護者の負担を軽減する意味から西紋地域での学級運営は必要であることから運営費負担も必要とする。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況 <input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input checked="" type="checkbox"/> 下回る	言語治療学級を維持し、保護者の負担軽減を図ることができた。児童個々に障害の度合いも違うことから、継続して通級が必要な児童もある。
有効／概ね有効／課題あり		

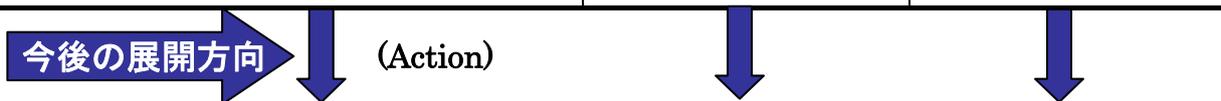
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	通級費の一部助成にあつては、近隣町村と乖離の無い程度に縮減済み。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
ことばの発達障害をもつ児童の保護者の負担軽減と児童の学校生活の充実、教育内容の充実に向け、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続／現状維持		
運営費の一部負担については人口や障害児童数、基準財政需要額から割り出されており、また通級費の一部助成についてもすでに縮減を図っており、現状維持により継続することが適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-9

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	遠距離通学児童負担金			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	主事	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				主事
事業の概要	スクールバスによる登下校が困難な児童に対する通学手段の確保のため、学校までの一定の距離以上の地域に居住する児童の送迎をおこなう保護者に対して支援をおこなった。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等	雄武町遠距離通学児童生徒通学費補助規程		
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	18千円	8千円	23千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	18千円	8千円	23千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	学校からの申請距離の精査		遠距離世帯児童に対する均等な義務教育機会の確保	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	本事業を実施することによって児童・生徒の均等な教育機会を確保する。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	児童生徒の通学・学習意欲の向上が図られ、よりよい人間形成と学校運営の円滑な推進にもつながる。		① 援助すべき児童数	目標年度 目標値 実績値 達成度
内容(どのような手段で何を行ったか)				
① 児童送迎をおこなう保護者への交通費支援	学校を通じて遠距離通学児童を調査の上、スクールバスでの登下校が困難な世帯に対して送迎に要する費用の一部を支給。			
②				
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	スクールバスによる送迎が望ましいと思うが、小学校と中学校の下校時間の違いから難しく、一定の区域からの保護者送迎は均等な教育機会の確保を図る上では必要と考える。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	通学・学習意欲の減退も無く、学校運営の円滑な推進につながった。
有効／概ね有効／課題あり		

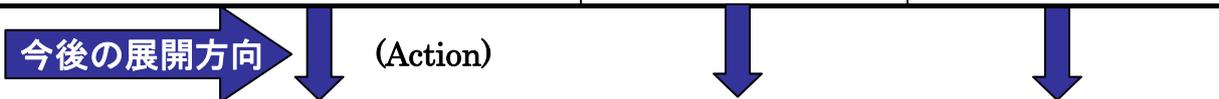
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	登下校の内、登校はスクールバスを利用させるなど、可能な限り保護者の負担軽減と経費の節減に努めている。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
通学や学習意欲の向上にも有効な事業であり、支給額も一定の予算範囲内での支給としており、計画どおり進めることが適当である。		



継続／現状維持		
児童・生徒の通学や学習意欲の向上、教育機会の均等な確保のため、保護者の負担を軽減する本事業は必要である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-10

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武町学校教育振興推進協議会補助金			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	雄武町のすべての児童生徒の望ましい人格形成を目指し、町内の全教育機関が連携を図り、効率的かつ効果的な活動の展開によって雄武町の教育目標達成に向けて学校教育の振興と教職員の資質向上を図ることを目的に設置する協議会に対して運営費を助成している。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,200千円	1,200千円	1,200千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,200千円	1,200千円	1,200千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒・教職員	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題や二一ズは】	児童生徒数の減少を背景とした、教職員の減少からなる学校経営・運営の偏重。		協議会の安定した運営		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	町内の全教育機関が連携し専門部会ごとの課題検討や協議によって教職員の資質向上と時代の変化に対応した偏重の無い学校経営・運営をおこなう。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	雄武町教育目標の達成に向けて町内の全教員が同じ認識のもとに学校経営・運営をおこない、また教職員の資質向上によって児童生徒が時代の変化に対応した、より良い教育を受けることができる。		① 運営団体数	目標年度	19年度
			目標値	1団体	
			実績値	1団体	
			達成度	100%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①協議会への運営補助	協議会の安定した運営に向け、運営費を補助した。				
②					
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	大きく変化している教育情勢に対応するため、町内の全教育機関が連携し専門部会ごとに課題検討や協議をおこない、教職員の資質向上、時代の変化に対応した偏重の無い学校経営・運営をおこなうためには本協議会への運営補助は必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	安定した協議会運営がなされ、各種専門部会での積極的な課題検討がおこなわれるとともに、教職員の資質向上に向けた研修もおこなわれ、各学校間の連携も図られている。
有効／概ね有効／課題あり		

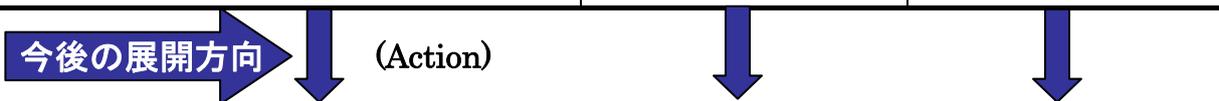
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	分散していた各種部会を本協議会一つにまとめ、運営補助を一本化し効率的かつ効果的な運営を促し、補助金の削減も講じるなど対策を講じてきている。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	B	
時代の変化に対応した偏重の無い学校経営・運営をおこなうため、計画どおり事業を進めることが適当である。	協議会の在り方について見直しが必要。	



継続／現状維持	継続／現状維持	
変化する教育情勢に対応し、適切な学校経営・運営を行っていく上では、教職員間での課題の投げかけ、合同での検討協議をおこなうことが必要であり、これが時代を的確にとらえた教職員の育成にもつながり、また個々の教職員の資質や指導力の向上が子供たちの受ける教育内容の充実にもつながることから、現状維持が適当である。	指標・目標は、違う視点 (研修成果等) で今後設定すること。	

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-11

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	要保護・準要保護児童生徒就学援助費			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
		職名		係長
		氏名		新谷朋人
事業の概要	低所得者層の世帯に対して、児童生徒の教育の機会均等を図り、一定水準の義務教育を保障するため、就学援助費を支給した。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登録事業		□非登録事業
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等	学校教育法・雄武町就学援助実施要綱		
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,469千円	1,918千円	2,073千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,460千円	1,873千円	2,043千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童・生徒、保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題や二一ズは】	準要保護申請にあっては校長や民生委員の意見を徴し認定の判断基準の一つとしているが、内縁関係等の生計の実態把握ができない。		経済的理由による就学困難児童・生徒数		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	低所得者層世帯の児童生徒が、他児童生徒と同様の義務教育を受ける。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	一定水準の義務教育が保障され、児童生徒の健全な育成につなげる。さらに「いじめ」「不登校」の未然防止にもつなげる。		① 就学困難児童・生徒数	目標年度	19年度
			目標値	0名	
			実績値	0名	
			達成度	100%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
① 援助を必要とする世帯の把握	学校が援助の必要な世帯状況を把握し、当該世帯の保護者に対して制度の周知、申請を取りまとめ、教委へ提出。所得や学校長、町民生委員の意見なども参考に審査し、教育委員会議に諮った結果、認定・不認定を決定。				
② 就学援助費の支給	援助の必要な世帯の保護者に対して実施要綱に基づき就学援助費を支給。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input checked="" type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input checked="" type="checkbox"/> 一部	学校教育法において市町村は就学困難と認められる児童生徒の保護者に援助することとされており、町が担うべき事業である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	本事業の実施により経済的理由による就学困難児童・生徒の発生を防ぐことができた。
有効／概ね有効／課題あり		

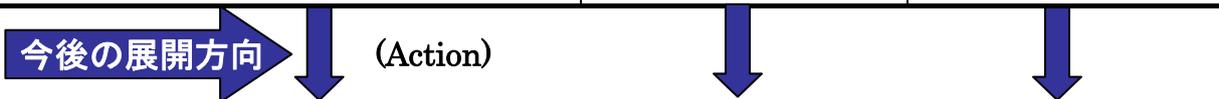
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	すでに認定所得基準額の引き上げをおこなっている。支給額については国の支給基準額並びに実費支給(領収書添付)により支給しており、今以上の事業費抑制は難しい。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
一定水準の義務教育が保障され、児童生徒の健全な育成につなげるとともに、「いじめ」「不登校」の未然防止にもつなげるために、計画どおり事業を進めることが適当。		



継続／現状維持		
法律上おこなわなければならない援助であり、児童生徒における義務教育機会の均等を図ることによって一定水準の義務教育が保障し、児童生徒の健全な育成を図るため、現状維持による継続が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-12

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武小学校トランス入替工事			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	学校に設置されているトランスが、経年からいつ故障してもおかしくない状況にあることが点検により指摘されていたことから、入替をおこなった。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	一千円	221千円	一千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	一千円	221千円	一千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	学校施設	指標/目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題や二一ズは】	トランスの一般的な耐用年数は20~30年といわれるが、経過後も機能するトランスも見受けられることから更新時期の判断が難しい。		トランスの更新台数								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	児童生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を整備する。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	校務の円滑な推進が図られる。		① 更新台数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	1台	実績値	1台	達成度
目標年度	19年度										
目標値	1台										
実績値	1台										
達成度	100%										
		②	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>%</td> </tr> </table>	目標年度		目標値		実績値		達成度	%
目標年度											
目標値											
実績値											
達成度	%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
①トランスの製造年数の把握	電気保安協会による定期点検結果を踏まえ、各小中学校に設置されているトランスの製造年数を調査。										
②トランスの更新	耐用年数を10年以上を超えている(製造から40年以上)トランスについて更新をおこなった。										
③											

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	停電事故等が発生した場合、校務運営への支障が多であり、事業実施は必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	円滑に校務を推進できる環境が整備された。
有効／概ね有効／課題あり		

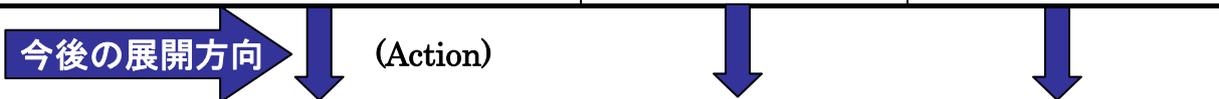
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	複数業者による見積合せを実施した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
万が一の停電事故等を想定した場合、校務への多大な支障が予想されることから、計画どおり事業を進めることが必要である。		



終了		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

製造から40年経過を目安として、各学校のトランスも計画的に更新していく予定である。

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-13

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	小学校教師用指導書購入事業			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	教員の指導力向上による教育内容の充実を目的として教員が使用する指導書について購入し学校へ支給した。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■ 登載事業		□ 非登載事業
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単 位 施 策	1	小中学校の教育内容の充実	
	事務事業の種類	■ 自治事務		□ 法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総 事 業 費	388千円	419千円	135千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	388千円	419千円	135千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童、教職員	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題や二一ズは】	指導書は学校の備品的な扱いとし後任の担任に引き継ぐよう指導しているが、使用頻度等によっては破損等もあり随時購入が必要となる。		指導書を備える小学校数		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	担任(教科担任)等が使用する指導書の購入及び支給。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	教員の指導力向上による教育内容の充実。		① 町立小学校数	目標年度	19年度
			目標値	6校	
			実績値	6校	
			達成度	100%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①購入希望調査の実施	予算策定段階において購入希望をとり、不足の状況や既存指導書の状況を確認の上、必要部数を取りまとめた。				
②指導書の購入・支給	教科書取扱店を通じて購入し、各学校へ支給した。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	各学校の教職員が児童に対してわかりやすい授業を展開していく上で必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	各学校においては指導書が不足することも無く、授業内容の充実が図られるとともに、教職員の指導力向上にも役立っている。
有効／概ね有効／課題あり		

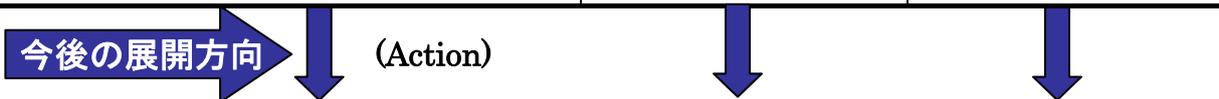
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	必要最小限冊数の購入に努めており、また備品的な扱いであるため、丁寧に利用するよう指導にも努めている。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
教員の指導力の向上、さらにはわかりやすい授業を展開することによって、子どもたちの学習意欲も向上することから、本事業は計画どおり進めることが適当である。		



継続／現状維持		
教員の指導力の向上、子どもたちにわかりやすい授業を展開するためには継続は必要である。指導書の購入にあたっては例年希望を取りまとめて購入しているところであるが、教科書改訂時には多くの購入が必要となるが、第5期総合計画 (前期) を基本に事務を進めていきたい。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-14

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	教職員教育振興事業負担金			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名 氏名	課長 安田伸雄	作成者 氏名 新谷朋人
事業の概要	都市部と比較して研修機会の少ない町内の学校に勤務する教職員に研修機会を与えるとともに、校内研修や公開研究事業を促進し教職員の資質向上を図ることを目的に、先進地視察や校内研修、公開研究に係る費用の一部助成をおこなった。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	423千円	331千円	538千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	423千円	331千円	538千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	教職員	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題や二一ズは】	先進地視察については対象教員に条件を設けていることから、4月の人事異動によっては対象者のいない学校等も発生する。		各学校における教育内容の充実		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	教職員が本事業を活用し、積極的に視察や研修をおこなう。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	変化する教育情勢に対応した知識の習得など、教職員としての資質の向上を図ることによって、円滑な学校運営が推進され、さらには教育内容の充実にもつながる。		① 本事業の活用校数	目標年度 目標値 実績値 達成度	19年度 7校 7校 100%
		②	目標年度 目標値 実績値 達成度	 %	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
① 先進地視察希望者の取りまとめ	各学校を通じて教職員の先進地視察希望者のとりまとめ。				
② 校内研修計画書等の徴収	各学校より実施する校内研修、公開研究会に係る計画書を提出願い内容を確認。				
③ 報告書の提出と助成金の支給	先進地視察、校内研修、公開研究会終了後に学校を通じて報告書を提出願い、助成金を交付				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	へき地に勤務する教職員は都市部と比較し、研修機会が少ないため、研修機会を与え、新たな知識の習得など教職員としての資質の向上を図ることによって、円滑な学校運営さらには教育内容の充実にもつながることから本事業は必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	先進地視察や校内研修、公開研究会がおこなうことにより、教職員の資質向上が図られた。
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	すでに助成金の引き下げをおこなっており、また、道外視察研修に係る助成を休止している。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
へき地に勤務する教職員は都市部と比較し、研修機会が少ないため、研修機会を与えることは必要である。教職員としての資質の向上を図ることによって、円滑な学校運営さらには教育内容の充実にもつながる事業であり、計画どおり進めることが適当である。		

今後の展開方向 (Action)

継続／現状維持	継続／現状維持	
へき地に勤務する不利性を解消し、本事業によって研修機会を与えることにより、教職員としての資質の向上が図られ、円滑な学校運営さらには教育内容の充実にもつながるものであり、現状維持が適当である。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-15

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	豊かな体験活動推進事業			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名 氏名	課長 安田伸雄	作成者 氏名 新谷朋人
事業の概要	調査研究校に指定された幌内小学校がおこなう、子ども達が豊かな人間性や社会性を育むための実践活動に対して経費を負担する。（文部科学省所管事業）			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等	豊かな体験活動推進事業実施要綱		
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	一千円	563千円	1,044千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額 (一般財源)	一千円	0千円	0千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	児童	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)								
【抱える課題やニーズは】	特に無し		調査研究校としての事業の円滑な実施								
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	本事業の円滑な実施		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値							
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	本事業に取り組むことによって子ども達が自ら行動し自ら学ぶ力を養う。		① 実施校数	<table border="1"> <tr> <td>目標年度</td> <td>19年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1校</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1校</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100%</td> </tr> </table>	目標年度	19年度	目標値	1校	実績値	1校	達成度
目標年度	19年度										
目標値	1校										
実績値	1校										
達成度	100%										
内 容 (どのような手段で何を行ったか)											
① 事業実施校の募集・調査研究校としての指定	教育局からの通知にもとづき事業実施校を募集し、幌内小学校が調査研究校としての指定を受けた。										
② 道との委託契約に基づく事業の実施	道と町が事業実施に係る委託契約を締結し、幌内小学校が事業計画に基づき事業を実施。事業に要する経費については学校からの請求に事業負担金として支出。										
③ 事業報告	事業報告書を提出。審査の上、道より町へ委託金が支払われる。										

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	国・道の事業を活用とした町内校の積極的な取組である。 国から調査研究校として指定を受けて実施しているものである。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	円滑な事業の実施がおこなわれ、子どもたちの「自ら学び」「自ら考える」力が養われている。 また、事業が円滑におこなわれたことにより、調査研究校としての役割を果たしている。
有効／概ね有効／課題あり		

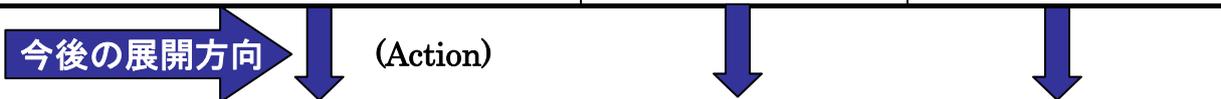
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	経費の全額が道の委託金でまかなわれている。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A	A	
事業期間が2年間であり、調査研究校として指定をうけている。国・道の実施要綱に基づく適切な実施によって計画どおり事業を進めることが適当である。		



継続／拡大	継続／拡大	
事業期間が2年間であり、調査研究校として指定をうけていることから、休廃止は不可能。 平成20年度は本事業に新たなメニューが加わり、豊丘小学校が調査研究校として指定を受け実施を予定。(単年度事業)	指標・目標の視点は、事業効果や成果指標で今後設定すること。	

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-16

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武中学校校舎棟電気暖房機更新工事			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	雄武中学校の暖房機が老朽化から機能していなかったことから、計画的に複数年によって更新工事をおこなった。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	7,659千円	7,537千円	一千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	7,659千円	7,537千円	一千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	生徒	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題や二一ズは】	年数が経つにつれ、修繕の必要箇所が増えてくる。施設を管理していく上では突発的に大規模工事も必要となることも予想される。		更新工事实施校数		
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	生徒の健康に配慮した学校づくりをおこなう。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	生徒が学校生活を送りやすい環境、さらには保護者が安心できる教育環境をつくる。		① 工事实施校数	目標年度	19年度
			目標値	1校	
			実績値	1校	
			達成度	100%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①学校の状況把握	学校の要望を聞き取り、教育委員と教委職員による学校訪問を実施し、更新工事の必要箇所の把握。				
②更新工事	指名競争入札により業者を決定し、更新工事を実施。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	生徒が義務教育を受けるための学校施設を町が維持管理していくことは必要不可欠である。生徒の健康面を考えると本工事は必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施することにより、教育環境の整備が図られている。
有効／概ね有効／課題あり		

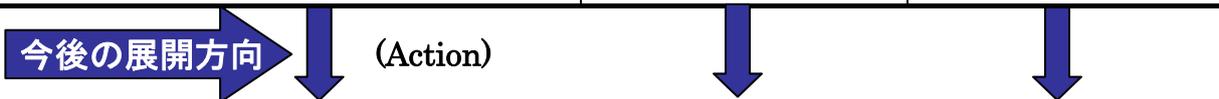
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	建設水道課と協議し、既設の暖房機の内、使用可能なものは利用するなど必要最小限の更新をおこなった。指名競争入札により業者を決定した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
生徒が義務教育を受けるための環境づくり、保護者が安心して子どもを学校に通学させられる環境づくりをおこなう本事業は計画どおりに進めていくことが必要である。		



終了		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-17

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武中学校生徒用トイレ便器改修工事			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	学校環境整備として学校からの要望を踏まえて和式便器の洋式化をおこなった。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	一千円	1,516千円	一千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	一千円	1,516千円	一千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	生徒	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	建設年度が古いため、年数が経つにつれ、時代にあった改修の必要箇所も増えてくる。		改修工事実施箇所数	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	生徒が利用のしやすい学校づくりをおこなう。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	生徒が学校生活を送りやすい環境、さらには保護者が安心できる教育環境をつくる。		① 洋式化箇所数	目標年度 19年度 目標値 7箇所 実績値 7箇所 達成度 100%
		②	目標年度 目標値 実績値 達成度 %	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①学校の状況把握	学校の要望を聞き取り、教育委員と教委職員による学校訪問を実施し、改修工事の必要箇所の把握。			
②更新工事	指名競争入札により業者を決定し、改修工事を実施。			
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	生徒が義務教育を受けるための学校施設を町が維持管理していくことは必要不可欠である。生徒が学校生活を送りやすい環境、さらには保護者が安心できる教育環境をつくるために本工事は必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施することにより、教育環境の整備が図られている。
有効／概ね有効／課題あり		

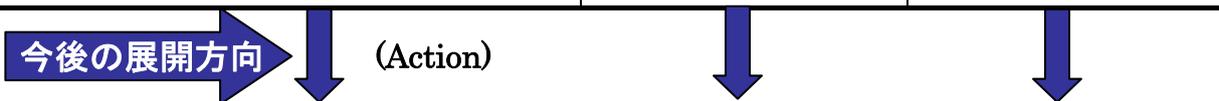
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	指名競争入札により業者を決定した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
生徒が義務教育を受けるための環境づくり、保護者が安心して子どもを学校に通学させられる環境づくりをおこなう本事業は計画どおりに進めていくことが必要である。		



終了		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

--

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-18

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	雄武中学校間仕切撤去工事			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	生徒数の減少から空き教室が発生していたことから、有効利用を図ることを目的に2教室間の仕切の撤去をおこなった。			
事業の位置付け	第5期総合計画	<input type="checkbox"/> 登載事業 <input checked="" type="checkbox"/> 非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	一千円	567千円	一千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	一千円	567千円	一千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	生徒	指標／目標	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	建設年度が古いため、年数が経つにつれ、時代にあった改修の必要箇所も増えてくる。		改修箇所	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	空き教室の有効活用により、多目的に利用が可能な教室を設置する。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	活動の範囲が拡大することによって学校運営の活性化が図られる。		① 改修箇所数	目標年度 19年度 目標値 1箇所 実績値 1箇所 達成度 100%
		②	目標年度 目標値 実績値 達成度 %	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)				
①学校の状況把握	学校の要望を聞き取り、教育委員と教委職員による学校訪問を実施し、改修工事の必要箇所の把握。			
②更新工事	指名競争入札により業者を決定し、改修工事を実施。			
③				

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	生徒数の減少から発生する空教室について、各学校が有効に活用し、学校運営の活性化が図られることから必要な事業である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	当該事業を実施することにより、空き教室が多目的にかつ有効に活用され、学校運営の活性化にもつながっている。
有効／概ね有効／課題あり		

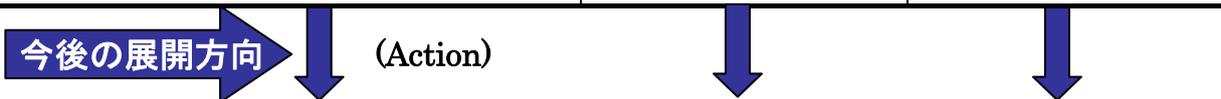
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	指名競争入札により業者を決定した。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
生徒の減少による空き教室の有効活用は全国的にも課題となっている。国庫補助を利用し建設された学校施設を有効に利用する本事業は計画どおり進めることが適当である。		



終了		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合
 終了
 休止
 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-19

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	中学校教師用指導書購入事業			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	教員の指導力向上による教育内容の充実を目的として教員が使用する指導書について購入し学校へ支給した。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業 □非登載事業		
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	1	小中学校の教育内容の充実	
	事務事業の種類	■自治事務 □法定受託事務		
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	382千円	129千円	0千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	382千円	129千円	0千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	生徒、教職員	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	指導書を備える中学校数		
【抱える課題や二一ズは】	指導書は学校の備品的な扱いとし後任の担任に引き継ぐよう指導しているが、使用頻度等によっては破損等もあり随時購入が必要となる。		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	担任(教科担任)等が使用する指導書の購入及び支給。		② 町立中学校数	目標年度	19年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	教員の指導力向上による教育内容の充実。			目標値	1校
			実績値	1校	
			達成度	100%	
		②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容 (どのような手段で何を行ったか)					
①購入希望調査の実施	予算策定段階において購入希望をとり、不足の状況や既存指導書の状況を確認の上、必要部数を取りまとめた。				
②指導書の購入・支給	教科書取扱店を通じて購入し、各学校へ支給した。				
③					

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	教職員が生徒に対してわかりやすい授業を展開していく上で必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	学校においては指導書が不足することも無く、授業内容の充実が図られるとともに、教職員の指導力向上にも役立っている。
有効／概ね有効／課題あり		

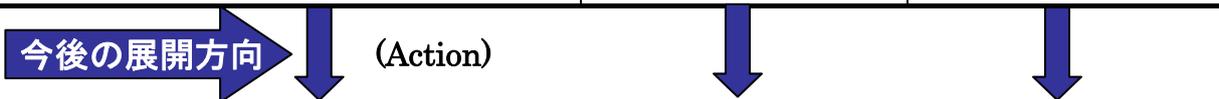
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	必要最小限冊数の購入に努めており、また備品的な扱いであるため、丁寧に利用するよう指導にも努めている。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
教員の指導力の向上、さらにはわかりやすい授業を展開することによって、生徒の学習意欲も向上することから、本事業は計画どおり進めることが適当である。		



継続／現状維持		
教員の指導力の向上、生徒にわかりやすい授業を展開するためには継続は必要である。指導書の購入にあたっては例年希望を取りまとめて購入しているところであるが、教科書改訂時には多くの購入が必要となるが、第5期総合計画 (前期) を基本に事務を進めていきたい。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項

平成20年度事務事業評価調書（対象：19年度）

整理番号 10-20

1 事務事業の表示

※ ■：該当

事務事業名	生徒教育振興事業負担金			
評価者	担当課・係名	教育委員会 管理課 学校教育係		
	課長等	職名	課長	作成者
		氏名	安田伸雄	氏名
				係長
				氏名
事業の概要	中学校の部活動における中体連等の生徒・引率教員に係る参加経費を負担した。			
事業の位置付け	第5期総合計画	■登載事業		□非登載事業
	政策目標	3	のびやか雄武～教育・文化の振興～	
	基本政策	12	学校教育の充実	
	単位施策	2	小中学校の教育環境の充実	
	事務事業の種類	■自治事務		□法定受託事務
	その他計画・根拠等			
事業コスト (実績)	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度(予定)
	総事業費	1,631千円	2,086千円	1,700千円
	総事業費の内雄武町が負担した金額(一般財源)	1,631千円	2,086千円	1,700千円

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	生徒、保護者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)
【抱える課題や二一ズは】	部員数の増加等によって経費が増加傾向にあることから、経費節減に向けた努力が必要である。	
【どのような状態になることを目指すのか(意図)】	本事業によって保護者負担の軽減を図る。部活動を通じて仲間意識を養うとともに生徒の健康保持、増進を図る。	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	仲間意識が養われ、生徒が充実した学校生活を送ることによって、より良い学校づくりにつながり、さらには学習意欲の向上にもつながる。	
指標/目標		
		よりよい学校づくりを行う対象学校数
		指標(指標計算式/解説)
		目標値及び実績値
		① 中学校数
		目標年度
		19年度
		目標値
		1校
		実績値
		1校
		達成度
		100%
		②
		目標年度
		目標値
		実績値
		達成度
		%
内 容 (どのような手段で何を行ったか)		
① 大会参加に係る負担金の申請	中学校より実施要項並びに負担費用の内訳を付した申請書の提出があり、参加費補助要項(内規)に基づき内容を審査し、適当であれば資金前渡により負担金を支出。	
② 報告書の提出と精算	大会終了後、領収書を添付した報告書を提出願ひ、支出状況を確認の上精算。	
③ 全道大会等出場経費の支出	地区大会の結果、全道大会等へ出場することとなった生徒・引率教員に対しても①・②同様に負担金を支出。	

3 事務事業の評価 (Check)

(1) 事務事業の必要性 (町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/> 義務的なもの <input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	義務教育下における活動であり、保護者の負担軽減を図るとともに、部活動を通じて仲間意識を養い、かつ生徒の健康保持、増進を図る上では必要である。
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性 (期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	仲間意識が強まり、生徒が充実した学校生活を送ることによって、より良い学校づくりにつながっている。
有効／概ね有効／課題あり		

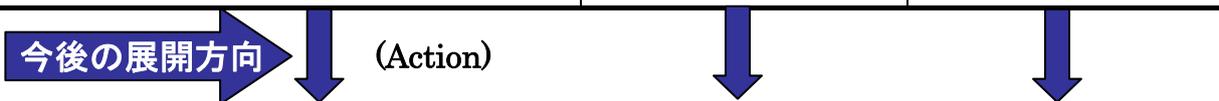
(3) 事務事業の効率性 (コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由 <input checked="" type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員抑制 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	参加費補助要項(内規)に基づき参加経費を支出しているが、担当教員の経費節減に向けた意識統一により、さらに事業費を抑制することが可能と思われる。
効率的／概ね効率的／課題あり		

4 総合評価【A～D】

A: 計画どおり事業を進めることが適当 B: 事業の進め方等に改善が必要
 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休・廃止の検討が必要

自己評価 (一次評価)	評価会議評価 (二次評価)	町長評価 (三次評価)
A		
義務教育下における活動であり、保護者の負担軽減を図るとともに、部活動を通じて仲間意識を強め、かつ生徒の健康保持、増進を図る上で本事業は計画どおり進めることが適当である。		



継続／現状維持		
参加費補助要項(内規)を定め参加経費を支出しているが、地区大会の開催箇所や部員数によって参加負担金は増減するため、適正な経費算出と経費節減を念頭におきながら、当面は現状維持が適当と判断する。		

* 展開方向の区分
 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合 終了 休止 廃止

5 その他特記事項